目標定めた経営を提言

ヤマガタヤ　新春講演会に200人

㈱ヤマガタヤ（本社名古屋市中区正木、吉田達弘社長）は1月24日午後2時から、恒例の新春講演会を岐阜駅のじゅうろくプラザで開いた。

今回は取引先関係者、同社社員など、これまでで最多となる約200人が参加した。

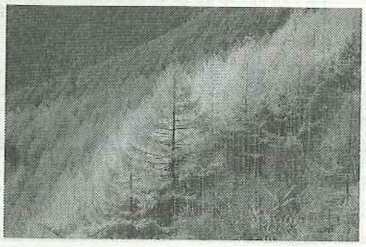
同講演会では、新建新聞社の三浦祐成新建ハウジング局長が「住宅産業大予測2013年～工務店経営の具体策と提言」をテーマに、2時間半余りにわたって熱弁を振るった。

冒頭、あいさつに立った吉田社長＝写真＝は「このところ住宅着工戸数は持ち直し、今年は年間96万戸の予測もあるなど活気づいている。しかし、その後は消費税率上昇などにより氷河期が来るとも言われている。こうした中でわが社の強みは何かと言えば、職人を擁する〝工事力〟だ。人手不足が懸念されているが、これまでも新卒者の中から職人を増やす努力を続けている」と述べた。

さらに3年前から積極的に展開している太陽光発電事業について「1日1棟、年間360棟の目標を掲げたが、現在はそれを大きく上回る実績を挙げ、業績を伸ばしている。今後も環境にやさしい商品を提供していきたい」とあいさつした。

続いて講演会が催され、三浦氏は「アベノミクスはデフレ不況を克服するため需給ギャップ15兆円という供給過剰を、お金をザブザブと注ぎ込んで埋めようという政策だ。〝超バラまき〟により長期金利は上昇し、ローン金利も最高4％程度にまで上がることが予想される。消費税率の上昇もあり、家を建てるのであれば今年前半が最大のチャンスだろう。こうした中で、ただ風まかせではなく、目標をもって工務店経営を進めるべきだ。高いビジョンを持ち、自分自身の選択肢をみつけてほしい」と訴えた。

さらに今年の住宅産業の動向を政治、経済、社会の変化に沿って詳しく解説し、政府の諸施策への対応について述べた。

業界短信

◆中部森林管理局（鈴木信哉局長）と長野県が共催で昨年実施した「カラマツ黄葉写真コンテスト」の入賞作品がこのほど公表された。審査の結果、応募作品190点の中から9点が入賞。最優秀賞（中部森林管理局長賞）には井上良二氏の「黄金色に輝く」（撮影場所＝長野県・小諸高峰高原、写真）が選ばれた。